



平成28年7月22日

## 60分授業に対応させた経営ケースブックを出版

岡山大学大学院社会文化科学研究科（経済学部）の北真収教授は6月、今年度から本学でスタートした60分授業に対応させた教科書『経営ケースブック 新たな市場、顧客を切り拓く』を作成し、刊行しました。

60分+60分の連続授業では、学生は前半60分に講義を通じて知識自体を学び、後半60分で知識を「どう使うか」という応用を考える機会を持つことができれば、学習効果は高まります。経営学は学生にとって体験学習が難しい学問であり、知識をどう使うのかを考えるきっかけ作りが必要との思いから、授業時間の変更を機に、ケースブックを出版しました。

経済学部の北教授と日高優一郎准教授が編著者となり、本学大学院社会文化科学研究科組織経営専攻（ビジネススクール）の大学院生やそのOB7人を含め総勢15人が執筆に当たりました。ビジネス勘を備えた方々が執筆している点も大きな特徴です。

### <教科書の概要>

本年6月、経済学部の北真収教授と日高優一郎准教授が編著者となり、教科書『経営ケースブック 新たな市場、顧客を切り拓く』を岡山大学出版会から刊行しました。

本書は、第1部のケース分析のための経営戦略やマーケティングの基礎知識と、第2部の実際のビジネスケースの2部構成で、ビジネスケースを中心に編纂しています。ケースの数は、製造業、ソフトウェア、観光、外食、金融機関、医療機関など幅広い業種の16事例。総ページ数は344ページ。1,204円（税抜）。

### <背景>

専門知識の習得では、「知識をどう使うのか」が腑に落ちないと理解したとはいえません。どう使うかが分かれば、自ずと授業に関心を持ち、授業が面白くなります。経営学は学生にとって体験学習がしにくい学問なので、ケース（事例）はことさら重要であると考えます。

### <出版のねらい>

授業時間が、従来の90分から60分の集中型に変わること、授業を知識の解説と応用の2つに分けて組み立てることが効果的になります。60分+60分の連続授業の場合、学生は前半の60分は講義を通じて知識自体を学び、後半の60分は討議を通じて知識を「どう使うか」を考えるのが理想です。特に、後半の60分では、討議を引き出すための材料が必要であり、今回、それをケース（事例）として編纂し出版しました。知識をどう使うか考えるきっかけ作りとなることが狙いです。



## PRESS RELEASE

### <教育効果>

学生にとって経営はわかりにくいですが、企業勤務の経験のある教員や社会人の大学院生（ビジネススクール在学学生）が、理論的知識を応用する視点から経営内部を描いたケースを作成することによって、学生の知識への理解力だけでなく、適合力、応用力を向上させる効果が期待できます。

### <お問い合わせ>

大学院社会文化科学研究科（経済学部）

教授 北 真収

（電話番号）086-251-7555